



小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

2025年3月期 決算概要説明

2025年5月22日

■ 事業概要	2
■ 2025年3月期 決算概要	7
■ 2026年3月期 業績予想	13
■ 中期経営計画進捗	16
■ 資本コストや株価を意識した経営	22

2025年3月期 決算概要説明

事業概要

社名	小松ウォール工業株式会社
代表取締役社長	加納 慎也
設立	1968年1月
上場市場	東証 プライム (7949)
事業内容	可動間仕切、固定間仕切、トイレブース、移動間仕切、ロー間仕切の製造、設計、販売、施工等
売上高	446億円 (2025年3月末)
従業員数	1,399名 (2025年3月末)
本社	石川県小松市工業団地1丁目72番地
営業拠点	全国54支店 (2025年3月末)

主要製品 売上高構成比

可動間仕切

売上高 19,661 百万円
構成比 44.1 %



固定間仕切

売上高 9,398 百万円
構成比 21.1 %



トイレブース

売上高 7,753 百万円
構成比 17.4 %



移動間仕切

売上高 6,012 百万円
構成比 13.5 %



ロ一間仕切

売上高 609 百万円
構成比 1.4 %



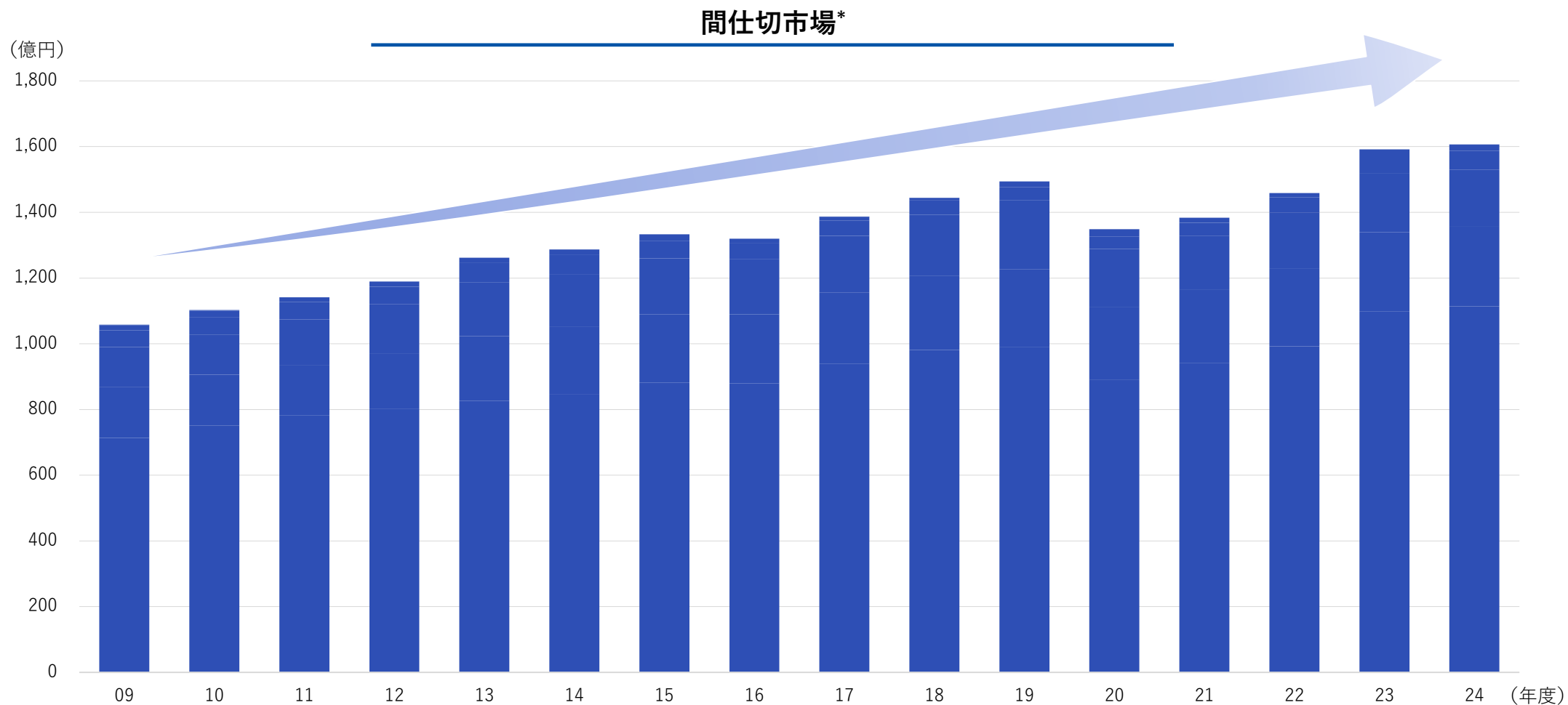
売上高

44,616

百万円
(2025年3月期)

■ 2020年度のコロナ禍による減少後は着実に回復、2024年度は0.9%増の1,606億円の販売高と過去最高の販売高

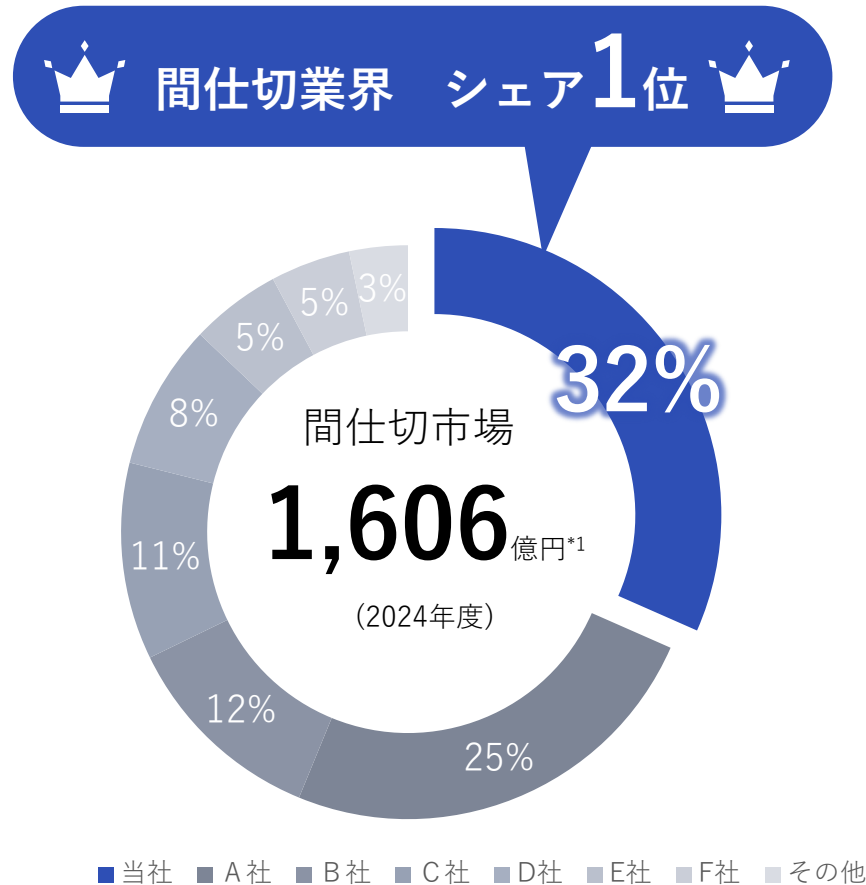
■ 2024年もオフィスビルの竣工は減少したと推定されるが、リニューアルの増加で間仕切市場が好調



* 日本パーティション工業会に属する間仕切メーカーの販売高合計

当社のポジション

■ 2024年度の間仕切市場は1,606億円、当社のシェアは業界トップの31.6%（前年度は31.0%）で前年度比0.6ポイント上昇、市場規模の大きい可動間仕切に加えて、移動間仕切、トイレブースでトップシェア



可動間仕切
30.3% シェア1位
(前年度 28.6%)



移動間仕切
38.8% シェア1位
(前年度 38.1%)



トイレブース
36.1% シェア1位
(前年度 37.1%)



学校間仕切
14.9% シェア4位
(前年度 16.8%)



壁面化粧パネル
32.3% シェア2位
(前年度 53.6%)



2025年3月期 決算概要説明

2025年3月期 決算概要

- オフィス向けが好調で売上高は前期比2.4%増収、従来予想比では福祉・厚生施設向け等が減収となり3.0%の未達
- 高付加価値製品の販売が増加し、売上総利益は6.9%増益となったが、賃借料や物流費の増加により、営業利益は前期並み
- 2025年1-3月期に限れば、オフィス向けの好調に加え、文化施設向けも増収となり、売上高は6.3%増収、営業利益は65.0%増益

単位：百万円	2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期従来予想 (24年4月時点)		2025年3月期実績		前期比 増減率	予想比 増減率
売上高	37,772	100%	43,551	100%	46,000	100%	44,616	100%	2.4%	△3.0%
営業利益	2,306	6.1%	3,640	8.4%	3,800	8.3%	3,635	8.1%	△0.1%	△4.3%
経常利益	2,363	6.3%	3,732	8.6%	3,850	8.4%	3,756	8.4%	0.6%	△2.4%
当期純利益	1,627	4.3%	2,775	6.4%	2,850	6.2%	2,650	5.9%	△4.5%	△7.0%
1株当たり 当期純利益	87円64銭		149円04銭		153円03銭*		145円64銭*		△2.3%	△4.8%
1株当たり 配当金	47円50銭		62円50銭		65円00銭**		65円00銭**		4.0%	—

* 2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施。1株当たり当期純利益は分割後の株数で算出、過去実績も遡及修正

** 2025年3月期の配当は期初に株式分割があったものとして算出、過去実績も遡及修正

- 可動間仕切はオフィスや学校・工場向けが好調、軽量ドアなどの固定間仕切もオフィスや文化施設向けが堅調に推移
- 受注残はその他を除いた全品目で増加、オフィスや学校・文化施設などが引き続き堅調で、可動間仕切と固定間仕切は2桁の増加

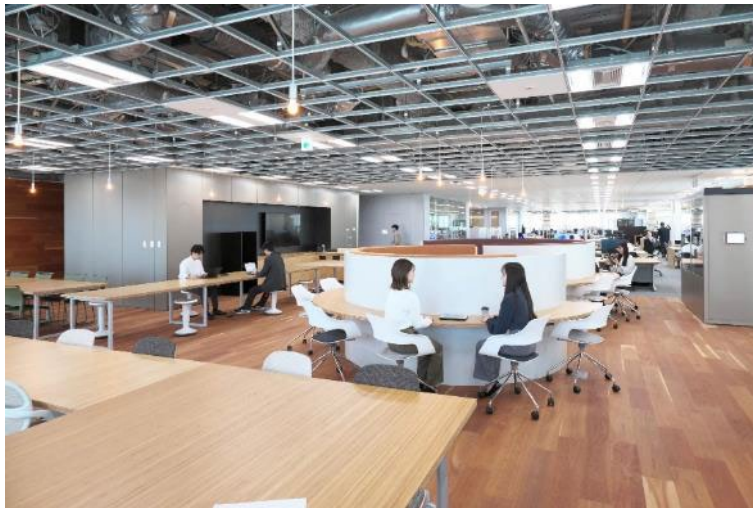
単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期					
	実績	実績	前期比増減率	受注高	前期比増減率	受注残高	前期比増減率
売上高	43,551	44,616	2.4%	46,833	7.2%	18,897	13.3%
└ 可動間仕切	18,316	19,661	7.3%	20,891	15.0%	5,283	30.3%
└ 固定間仕切	9,184	9,398	2.3%	9,989	0.9%	5,615	11.8%
└ トイレブース	8,033	7,753	△3.5%	8,059	0.2%	3,444	9.8%
└ 移動間仕切	5,963	6,012	0.8%	6,120	8.8%	4,164	2.7%
└ ロー間仕切	641	609	△4.9%	628	0.9%	85	27.1%
└ その他	1,410	1,181	△16.2%	1,145	△13.2%	303	△10.7%

大型ショールーム開設・増床

- 2019年から大型ショールームを強化し、大阪、東京、名古屋にショールームを順次開設
- デザイン事務所や依頼企業が当社製品に直接触れることで、デザイン性に優れた高付加価値製品の採用が増加

2019/11
大阪

(2024/10移転リニューアル)



2021/1
東京

(2024/5リニューアル)



2023/7
名古屋

(2025/6リニューアル予定)

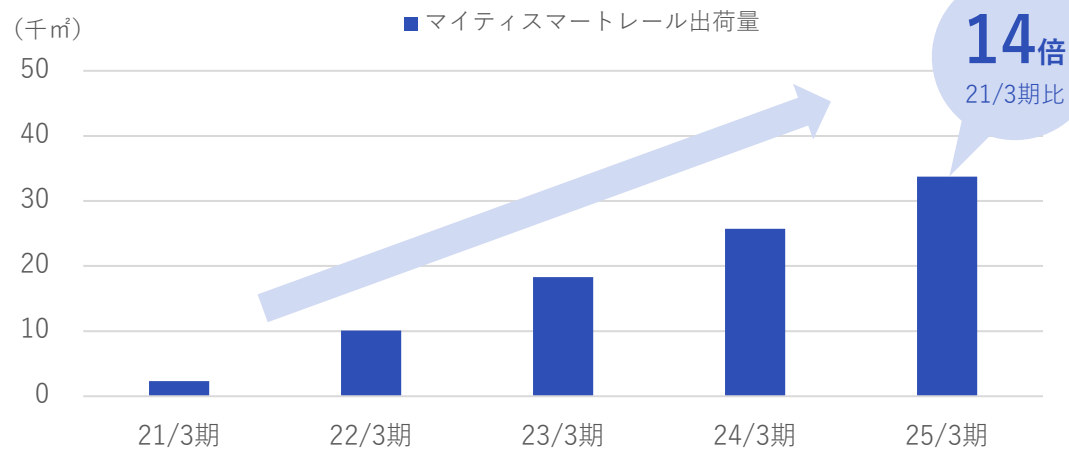


意匠性を高めた高付加価値製品が成長

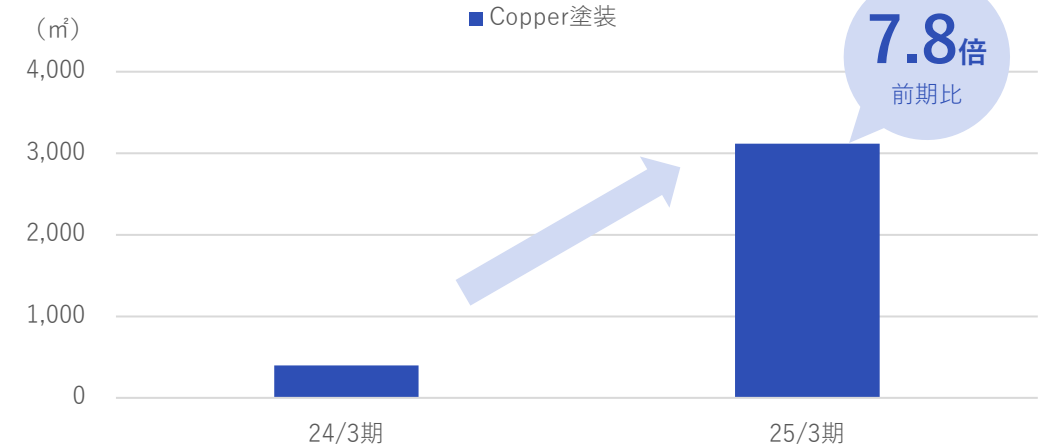
■ 2019年9月発売の意匠性を高めた連続ダブルガラス間仕切の「マイティスマートレール」の出荷量は21年3月期からの4年間で14倍に成長

■ 2023年10月発売のCopper Seriesは1年間で7.8倍に増加

マイティスマートレール（2019年発売）

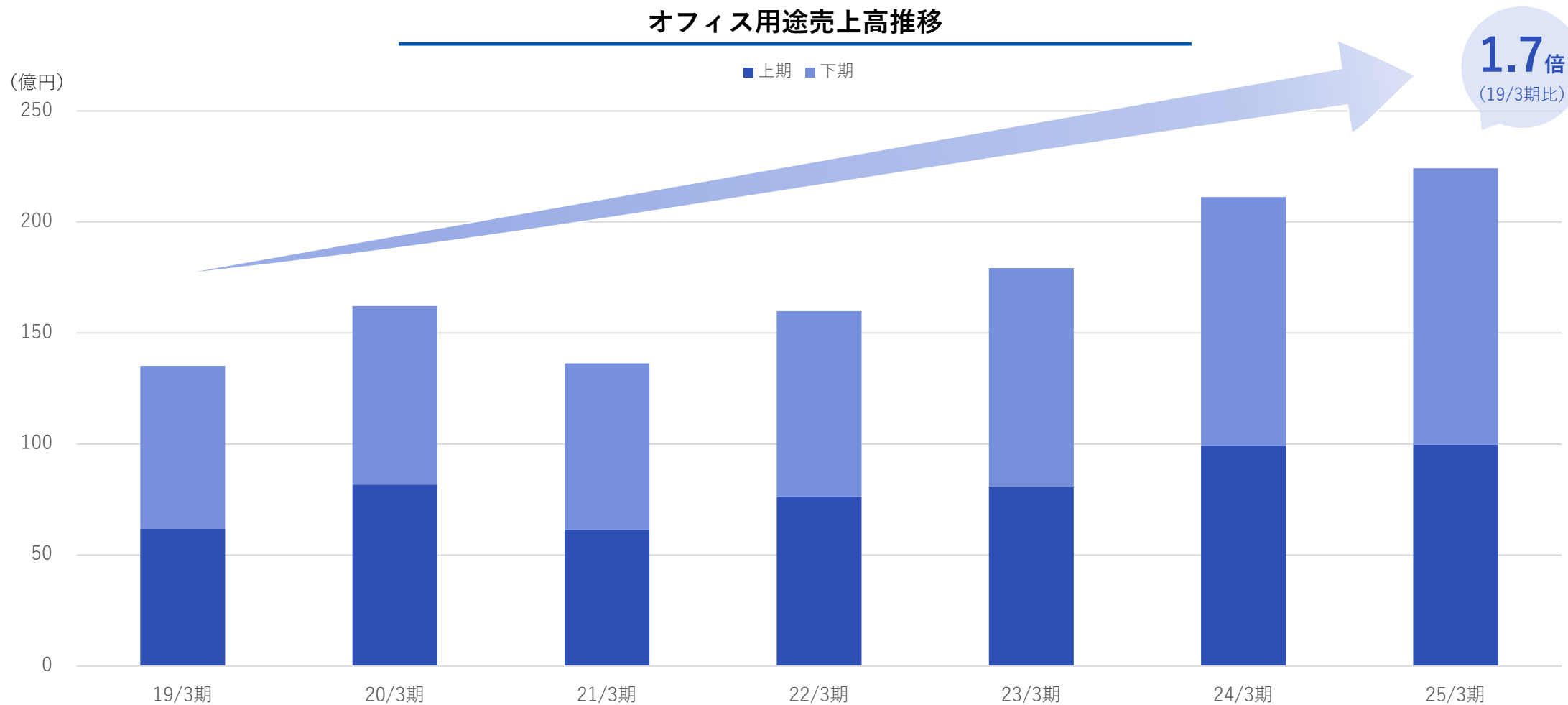


Copper Series（2023年発売）



オフィス用途売上高推移

- オフィス移転工事の需要を取り込むため、デザイン事務所や事務器メーカー専門の営業拠点も開設し、オフィス向けを強化
- 2025年3月期のオフィス用途売上高は2019年3月期比で1.7倍に増加、今期も増収を見込む



2025年3月期 決算概要説明

2026年3月期 業績予想

- オフィスのリニューアル需要が引き続き好調、トイレブースや学校向けでもデザイン性に優れた新商品を発売することから、売上高は前期比4.2%増収を予想。資材価格や運送費の大幅な上昇は一巡しており、増収を主因に営業利益は11.7%増益を予想
- 配当方針を純資産配当率（DOE）3%から6%水準に変更、2026年3月期の配当は前期比倍増の130円を予想

単位：百万円					2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期 通期予想		前期比 増減率
売	上	高			43,551	100%	44,616	100%	46,500	100%	4.2%
営	業	利	益		3,640	8.4%	3,635	8.1%	4,060	8.7%	11.7%
経	常	利	益		3,732	8.6%	3,756	8.4%	4,130	8.9%	10.0%
当	期	純	利	益	2,775	6.4%	2,650	5.9%	2,930	6.3%	10.5%
1 当	株 期	当 純	た 利	り 益	149円04銭		145円64銭*		160円97銭		10.5%
1 配	株	当 当	た	り 金	62円50銭		65円00銭**		130円00銭		100.0%

* 2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施。1株当たり当期純利益は分割後の株数で算出、過去実績も遡及修正
** 2025年3月期の配当は株式分割後の株数で算出、過去実績も遡及修正

- シンプルかつ洗練されたデザインのトイレブースを発売、普及価格ゾーンを狙う
- オレフィンシートを採用することで、製造時に排出される二酸化炭素を塩ビシート製よりも減らし、環境にも配慮



2025年3月期 決算概要説明

中期経営計画「NEXT VISION 2028」 進捗 (2024年3月期～2028年3月期)

定量目標

- 2025年3月の売上高は前期比2.4%増収、営業利益率は8.1%と前期に続き8%台を維持、一方ROEは7.0%と従来目標線だが、修正目標未達
- オフィス向け、トイレブース、学校向けの新製品発売により増収率を高め、資本政策見直しにより、ROEの改善を図る

	2028年3月期目標 (従来)		2028年3月期目標 (今回)	2025年3月期実績
R O E	5～8%	≫	8%以上	7.0%
売上高平均成長率	3～6%*	≫	4～6%*	8.7%*
売上高営業利益率	7～10%	≫	8～10%	8.1%

* 2023年3月期を基準とした年平均成長率

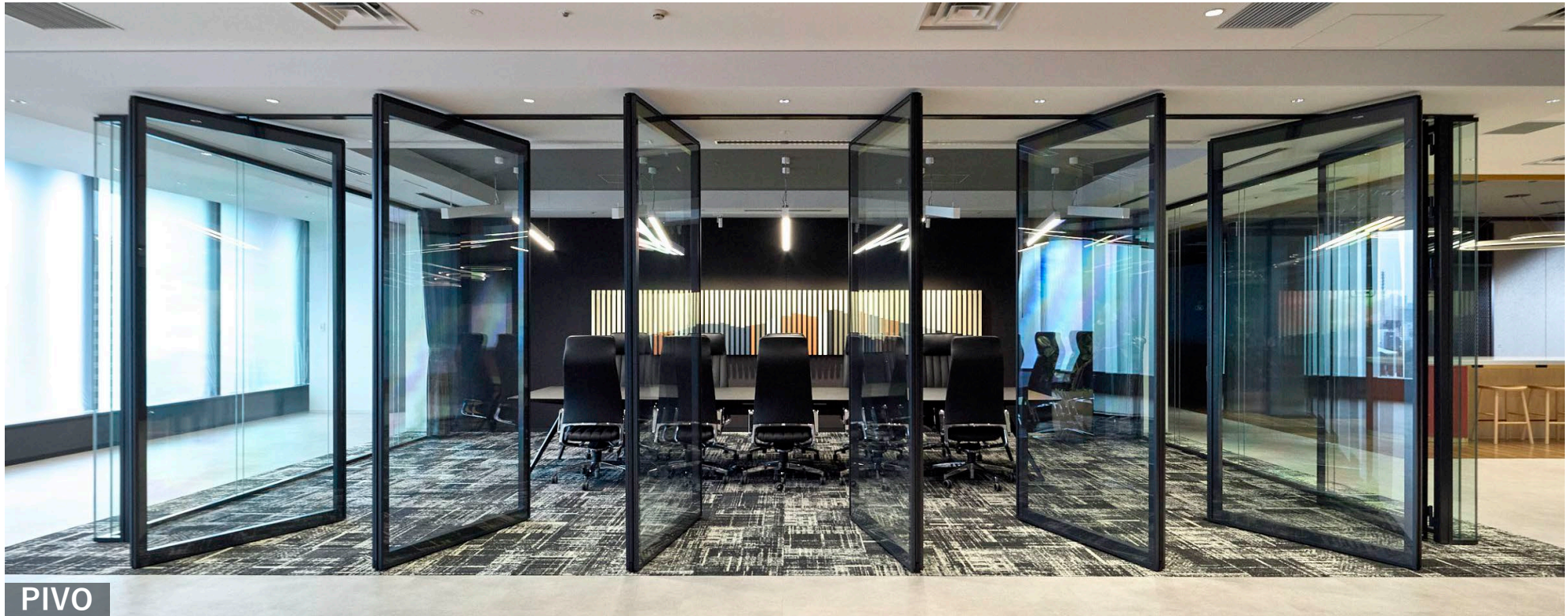
既存間仕切事業の成長

新規製品の創出

生産・物流オペレーションの高度化

既存間仕切事業の成長 2025年3月期進捗

- | 大型ショールームのリニューアル⇒東京（2024年5月）、大阪（2024年10月）
2026年3月期に名古屋の増床リニューアルを予定
- | 移動間仕切のオフィス分野での用途開発を目指し、中心一点吊りのダブルガラススライディングウォール「PIVO」を発売



新規製品の創出 2025年3月期進捗

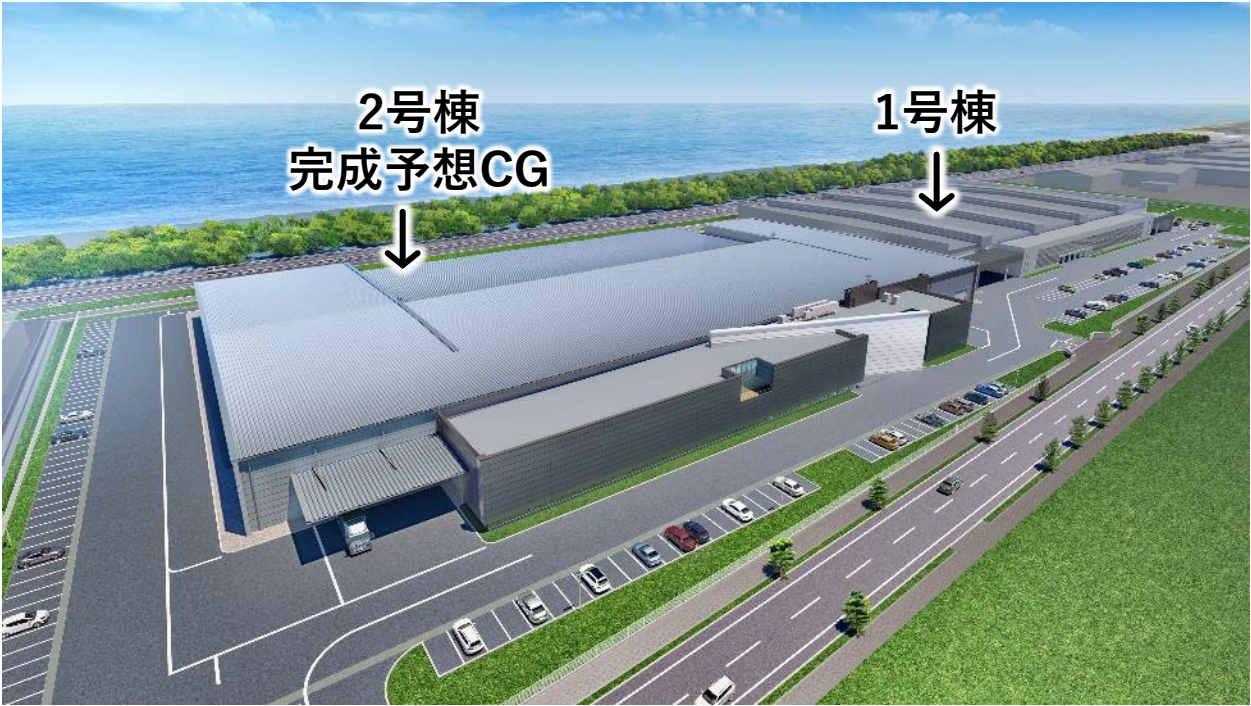
| デザイン性を向上させた製品を開発・発売⇒意匠や家具の分野へ



生産・物流オペレーションの高度化 2025年3月期進捗

- | 2024年4月に加賀工場2号棟（新棟）の建設を公表、第三工場の可動間仕切の一部の生産ラインを移管し、生産能力増強
- | 中期経営計画期間中の設備投資は150億円以上を計画
- | 建設と操業開始時期の見直し（2025年1月公表済）を行ったが、土地造成を終え、2025年5月から建設開始、順調に推移

名	称	加賀工場2号棟（仮称）
主	な	事業
事		可動間仕切の製造
業		研究開発
投	資	金額
金		約95億円
建	築	面積
面		約19,000㎡
延	床	面積
面		約19,700㎡
建	設	開始年月
開		2025年5月
始		
操	業	開始年月
開		2027年5月予定
始		



2025年3月期 決算概要説明

資本コストや株価を意識した経営

■ 当社は資本コストを上回る資本収益性（ROE）を上げられておらず、資本効率（売上高当期純利益率と財務レバレッジ）を改善する必要

現状分析

資本コスト

CAPMや株式益回りから考慮した当社の**資本コストは8%程度と推定**

ROE

改善傾向にはあるが、**ROEは8%を下回っている**

ROE要素分解

売上高当期純利益率及び財務レバレッジに改善余地

市場評価

PBR* 1 倍割れの状況が継続しており、**資本コストを下回るROEや成長性に対する投資家の厳しい見方**を反映していると推定

* $PBR = ROE \times PER$

資本コストを上回るROEを実現するため、利益率改善や株主還元強化を進める必要

中期経営計画目標の上方修正

■ 中期経営計画「NEXT VISION 2028」は想定を上回るペースで進捗、計画目標を上方修正

	変更前		変更後
ROE	5%～8%	≫	8%以上
売上高成長率	3%～6%	≫	4%～6%
営業利益率	7%～10%	≫	8%～10%

成長率と利益率の上昇のための追加施策

戦略検討チームの設立

- 製造、営業の主力メンバーで構成
- オフィスのリニューアル需要など成長領域での課題を抽出し、製販両面から改善策を検討
- 成長戦略の立案と、そのために不足するビジネスについて、M&Aも含めた改善策を検討

投資委員会を設置

- 関連役員等で構成し、ROICやIRRを用いた投資判断の徹底
- 加賀工場2号棟など大型投資案件で、収益性を踏まえた投資の可否を検討
- M&Aについても、収益性の観点から可否を検討

企業価値向上に向けた具体的な取り組み

- 中長期的に成長戦略を立案・実行し、利益成長を図る
短期的にはDOE6%を目安として株主還元を強化するとともに、資本コスト低減のためIR活動を強化するなどの施策を実行

売上高
当期純利益率の改善

資本効率性重視

｜ 投資委員会の設立、ROIC、IRRによる投資判断の徹底

成長戦略

｜ 戦略検討チームを設立し、M&Aを含めた成長戦略の立案と実行による
売上高成長率と利益率の引き上げ

財務レバレッジの
改善

株主還元強化

｜ DOE6%を目安に配当を実施

その他
(資本コスト低減策等)

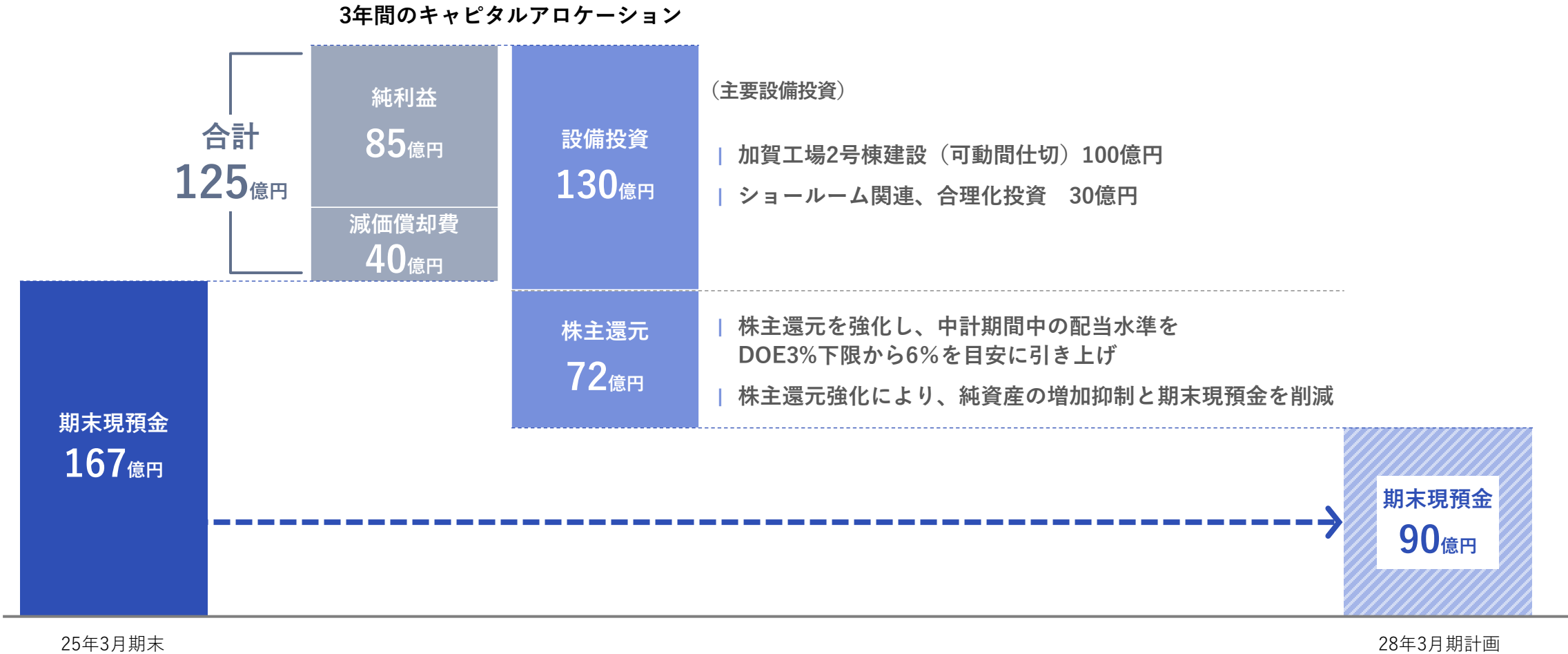
IRの強化

｜ 投資家との対話、エンゲージメントの拡充による株価ボラティリティの低減
｜ 中計の着実な実行とIR強化による投資家の期待成長率の引き上げ

株価を意識した
経営の促進

｜ 役員報酬制度改定の検討開始
｜ 従業員持株制度の拡充（奨励金の引き上げ）

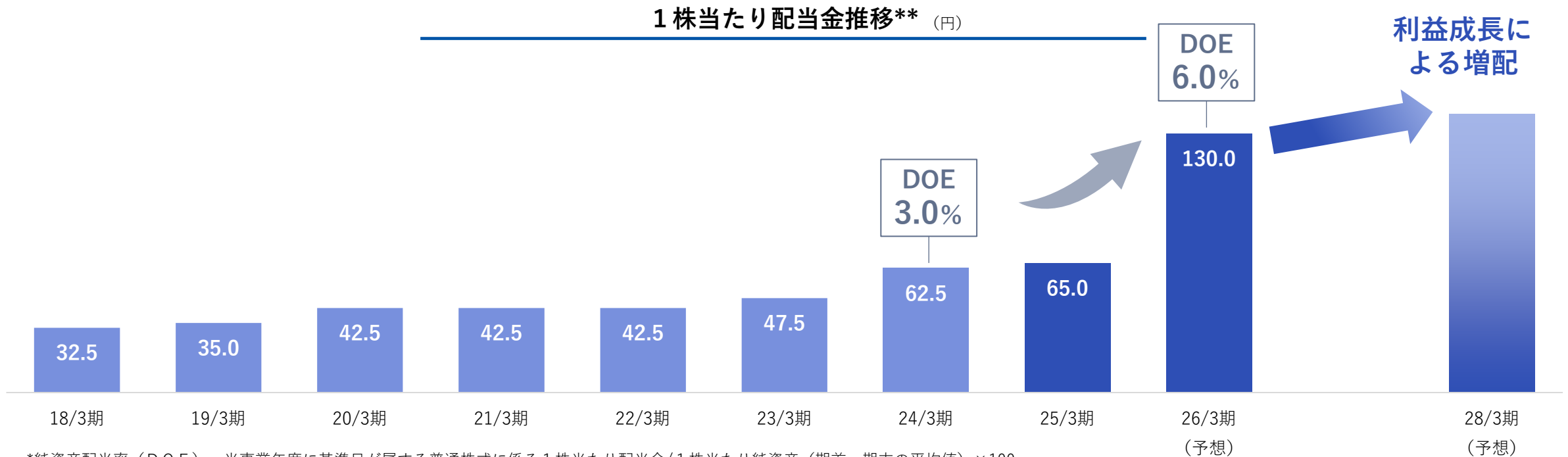
■ 今後のキャッシュインと現預金を使い、成長投資と株主還元を強化、2028年3月末の現預金は90億円（月商の2ヶ月強）の水準に削減



株主還元方針の変更（増配）

- 2026年3月期から株主還元方針を変更し、純資産配当率（DOE）6%を目安とした配当へ引き上げ。なお、23年4月にはDOE3.0%下限に変更
- 上記方針に基づき、2026年3月期は前期比2倍の130円への増配を計画

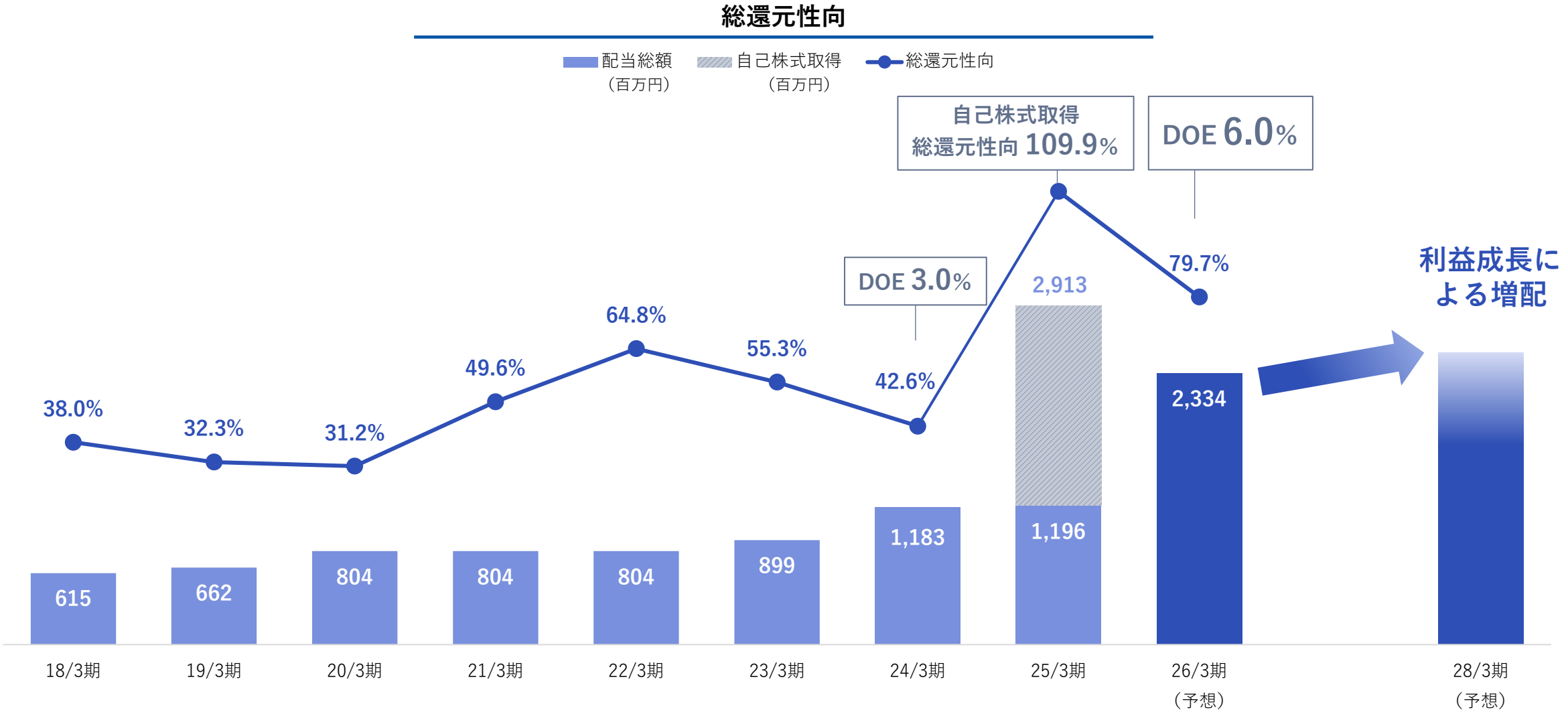
純資産配当率*（DOE）6%を目安とした配当を実施
持続的な成長も実現し、配当水準の安定的向上を目指す



*純資産配当率（DOE）＝当事業年度に基準日が属する普通株式に係る1株当たり配当金/1株当たり純資産（期首・期末の平均値）×100

**2024年10月1日付で1：2の株式分割を実施。過年度の配当金は株式分割後の株数での配当金に遡及修正

■ 2026年3月期は大幅増配を実施予定、高水準の株主還元を継続することで適正な純資産を維持し、ROEの上昇につなげる

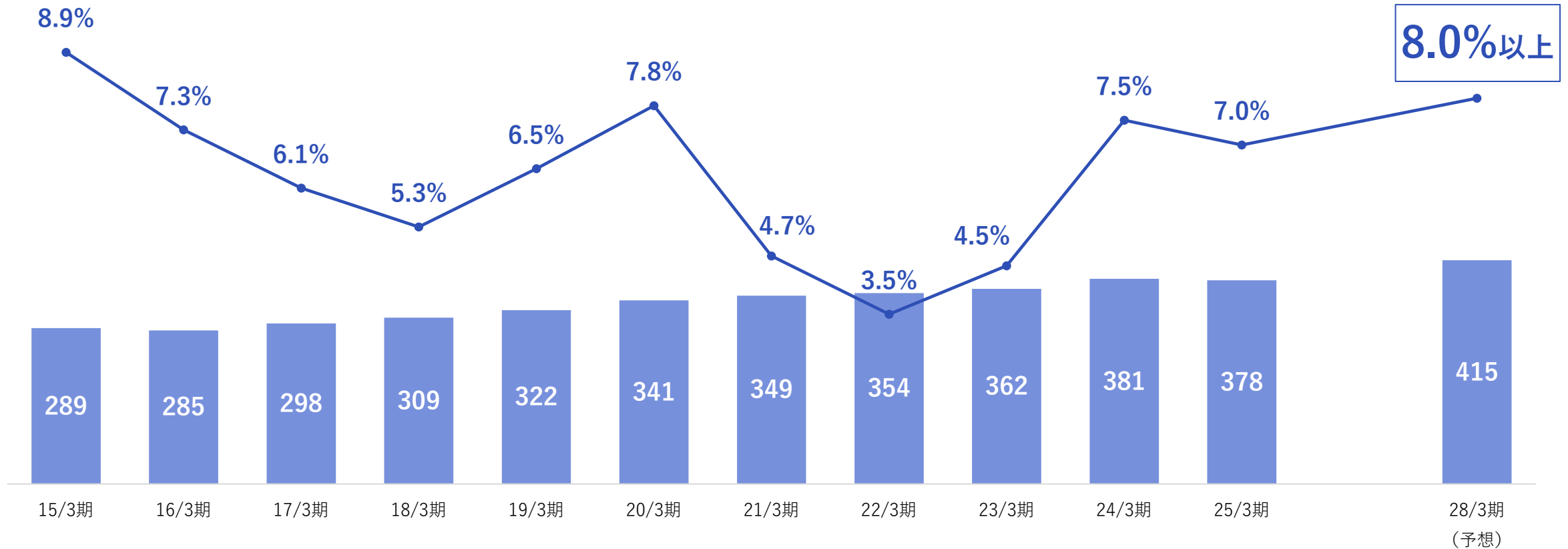


ROEの推移

■ 売上高当期純利益率の改善と株主還元強化により、中計最終年度の2028年3月期にはROEを8%以上に引き上げる

ROEの推移

■ 純資産
(億円) ● ROE



2025年3月期 決算概要説明

Appendix

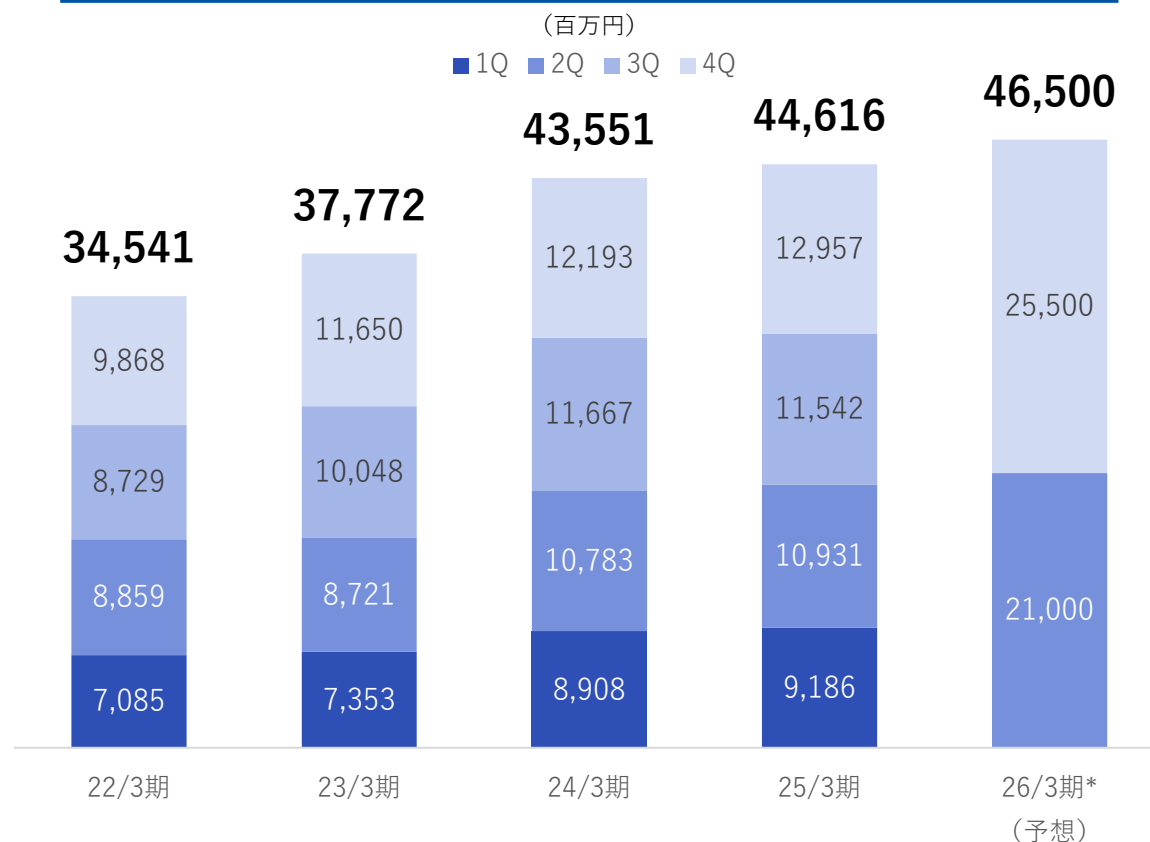
IRの実施状況	2023年3月期2Qより、決算説明資料の開示ならびに決算説明動画を配信 2023年3月期には決算説明資料ならびに中期経営計画資料を開示、決算説明会を実施 2024年3月期より、2Qと4Qの決算説明資料開示に加えて、各四半期で決算補足資料を開示
株主との会話の対応者 対応回数	代表取締役社長 加納 慎也 機関投資家とのミーティングは2025年3月期は14件実施
対話の主なテーマや株主への 関心事項	事業概要／決算概要 中期経営計画の詳細 当社の競争優位性／中長期的な競争戦略 資本政策、PBR1倍に向けた取り組み サステナビリティへの取組み 役員報酬について等
経営陣や取締役会に対する 実施状況	- 社長自身が機関投資家と対話をしており、他の取締役に適宜フィードバック - 投資家の意見や対話状況について、2025年3月期から年に2回取締役会で報告
フィードバックを踏まえて 取り入れた事項	「資本コストや株価を意識した経営の実現」について取締役会で議論し、配当方針の変更を決議 - 役員報酬制度の改定を検討

四半期業績推移

■ 2025年1-3月期の売上高はオフィス向けの好調などから6.3%増収、営業利益は人件費や物流コスト上昇等を吸収し65.0%増益

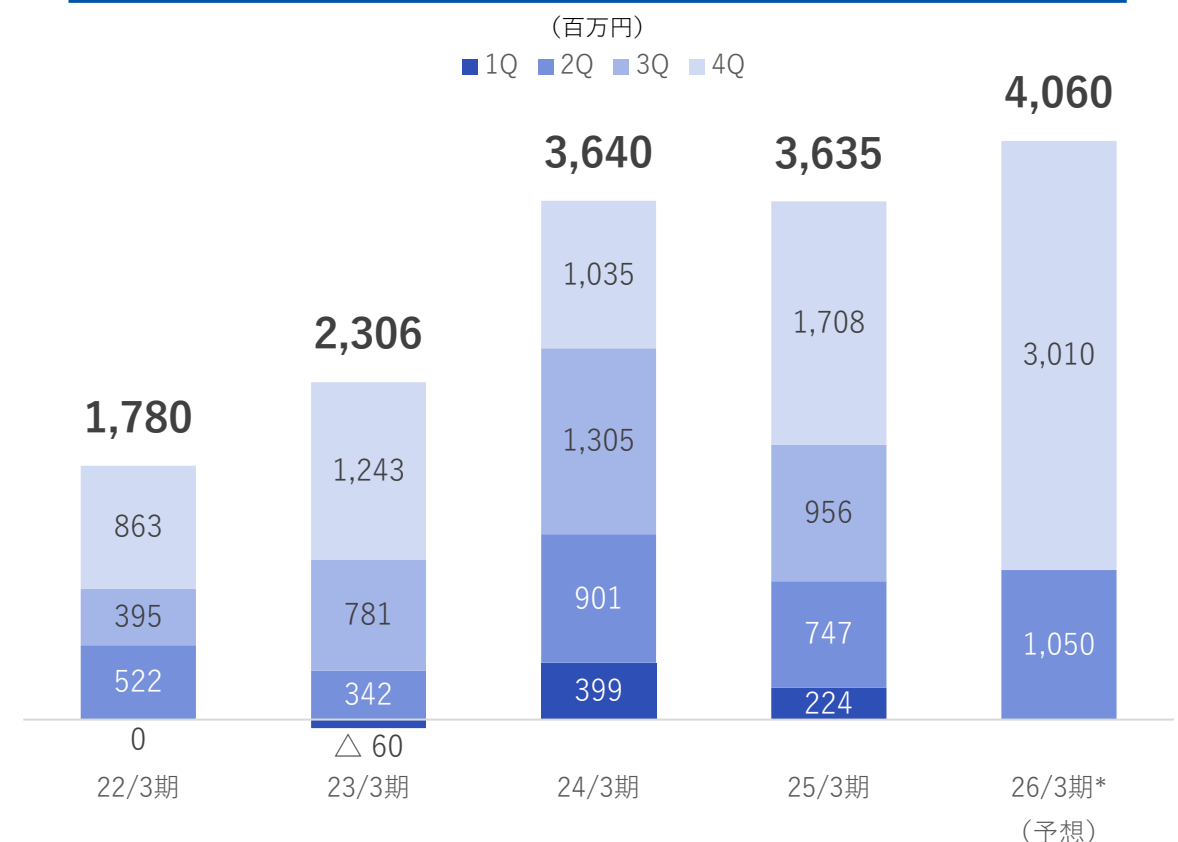
■ 2026年3月期もオフィス向けの好調が続くことを主因に増収を予想、資材価格や物流費の大幅な上昇も一巡しており、営業増益を予想

四半期売上高



* 26/3期は2Q累計と通期の当社業績予想値

四半期営業利益

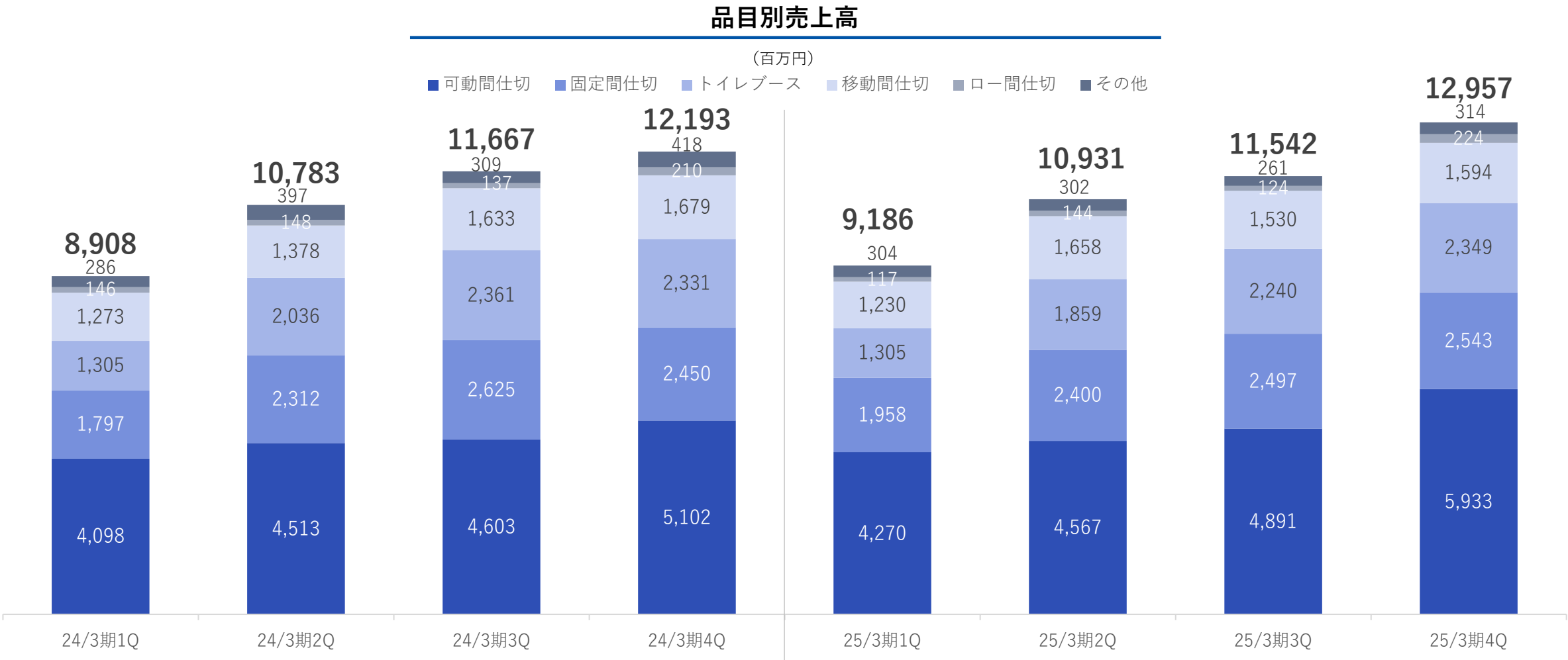


* 26/3期は2Q累計と通期の当社業績予想値

四半期品目別売上高推移



■ 2025年1-3期はオフィス向け中心に可動間仕切が好調に推移、固定間仕切やトイレブース、ロー間仕切も堅調に推移



■ 増配や自己株式取得など株主還元強化により、現預金と純資産が減少。自己資本比率は80.8%と引き続き高い財務安全性を維持

単位：百万円	2023年3月期末	2024年3月期末	2025年3月期末	前期末差
流動資産	29,999	32,539	31,322	△1,217
現預金	15,579	17,640	16,714	△926
売上債権・契約資産	13,181	13,615	13,231	△384
棚卸資産	1,023	1,123	1,117	△6
固定資産	14,760	14,915	15,433	518
有形固定資産	11,922	11,767	12,260	493
無形固定資産	420	385	415	30
投資その他の資産	2,418	2,763	2,757	△6
総資産	44,760	47,455	46,756	△699
負債	8,535	9,388	8,965	△423
買掛金	2,345	2,350	2,323	△27
有利子負債	0	0	0	0
純資産	36,225	38,067	37,790	△277
負債純資産合計	44,760	47,455	46,756	△699

キャッシュ・フロー計算書



- 経常増益や売上債権の減少等により営業キャッシュ・フローは3,327百万円、フリーキャッシュ・フローも2,858百万円のプラス
- 増配に伴い配当金の支払額は増加したが、定期預金の払戻等により期末現預金は13,649百万円と前期並み

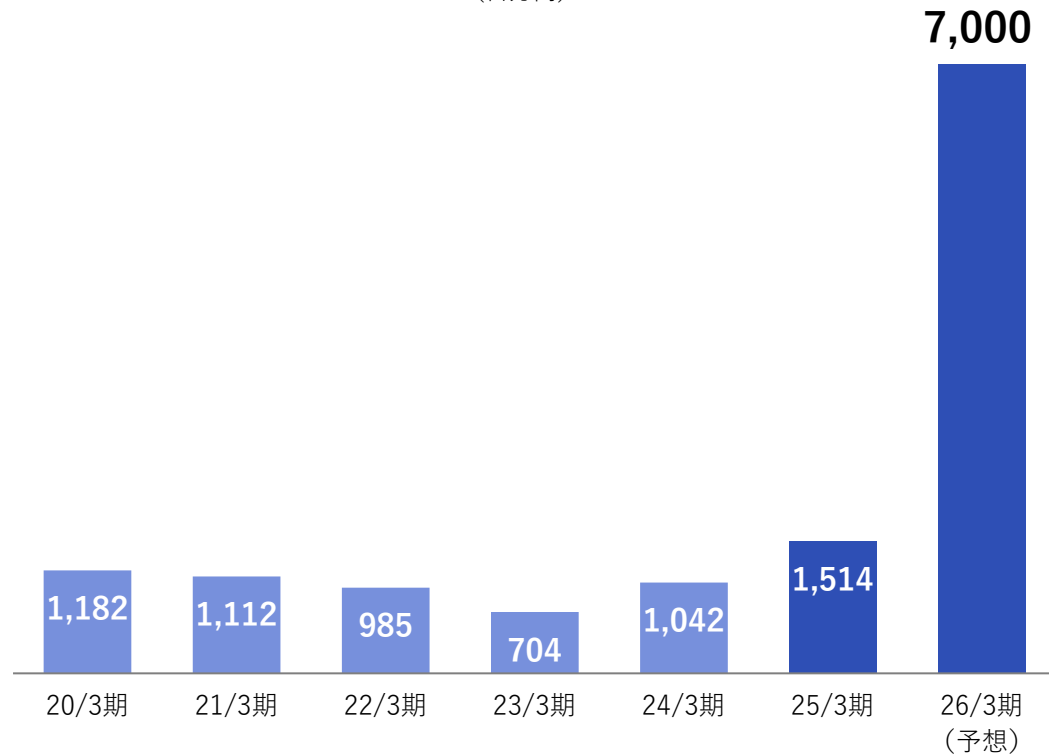
単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,676	4,273	3,327	△946
税引前当期純利益	2,446	3,744	3,802	58
減価償却費	1,073	1,127	1,160	33
売上債権の増減額（△は増加）	△2,064	△434	383	817
棚卸資産の増減額（△は増加）	△204	△99	5	104
仕入債務の増減額（△は減少）	389	4	△26	△30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△636	△1,171	△469	702
有形固定資産の取得による支出	△583	△916	△1,323	△407
定期預金の預入・払戻による支出入	0	0	1,000	1,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△810	△1,056	△2,729	△1,673
配当金の支払額	△804	△1,041	△1,229	△188
自己株式の取得・売却による支出入	-	△0	△1,485	△1,485
現金及び現金同等物の期末残高	11,476	13,521	13,649	128
フリーキャッシュ・フロー	1,040	3,102	2,858	△244

設備投資、減価償却費

- 2025年3月期は東京や大阪ショールームへの投資や既存機械設備の維持更新等で1,514百万円の設備投資を実施
- 2026年3月期は加賀工場2号棟建設、名古屋ショールームへの投資等で7,000百万円の設備投資を計画

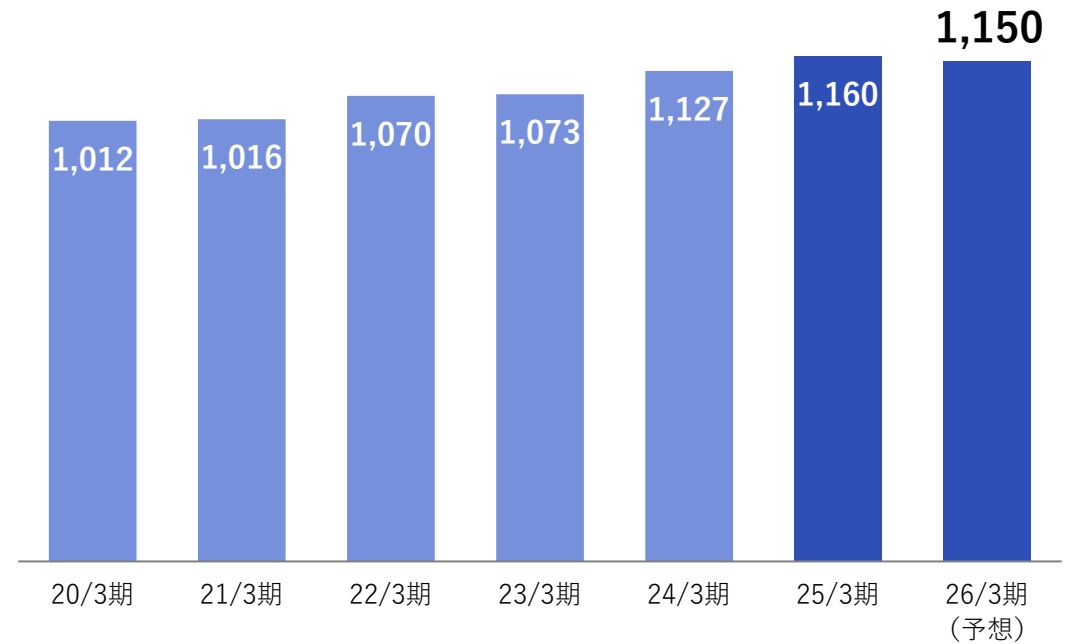
設備投資

(百万円)



減価償却費

(百万円)

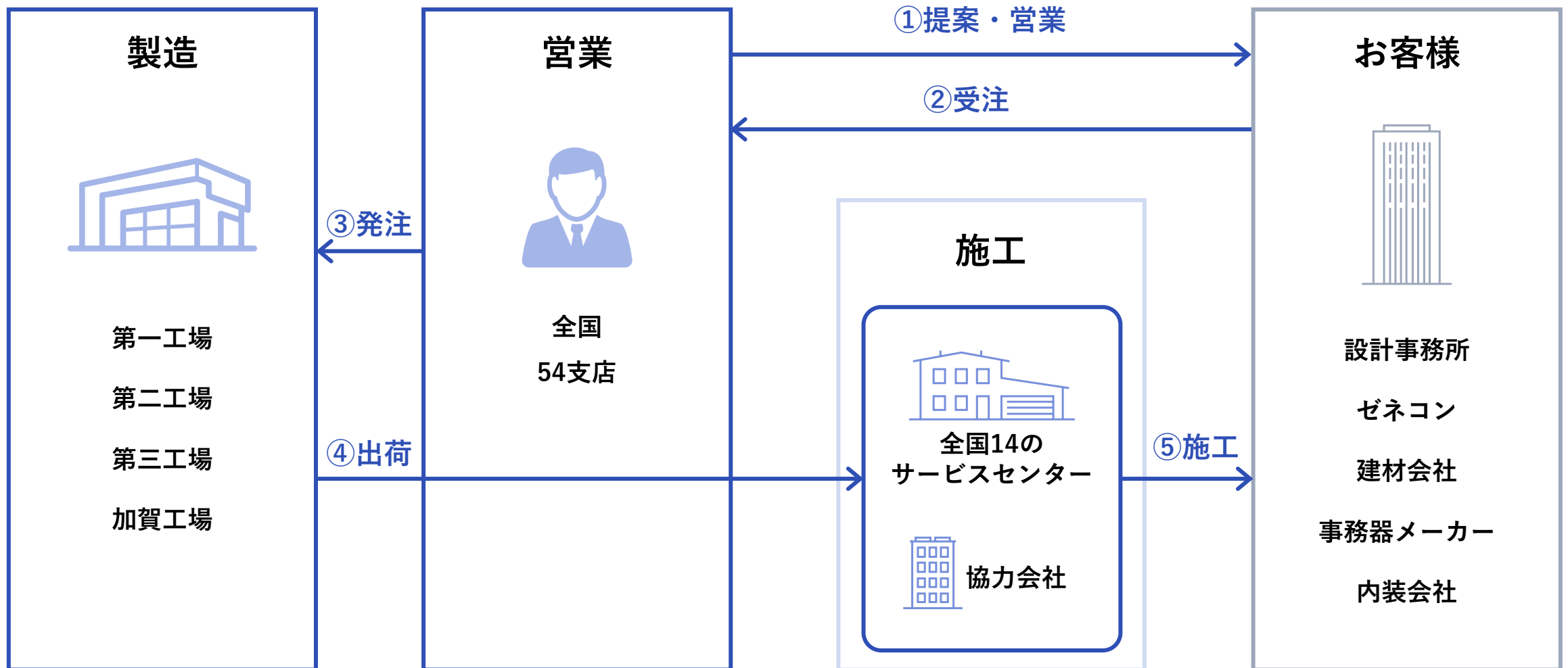


サステナビリティ推進

■ 特定したマテリアリティに基づき、マテリアリティ経営を推進する

マテリアリティ		テーマ	関連するSDGs
E	持続可能な循環型社会の実現	- カーボンニュートラルに向けた取り組み - 再生可能エネルギーの利用 - 廃棄物削減と資源の有効活用	7 再生可能エネルギーをみんなに そしてクリーンに 12 つくもの責任 つくる責任 13 気候変動に 具体的な対策を 14 海の豊かさ を守ろう
	製品を通じた気候変動対応への貢献	サステナビリティ製品対応に向けた製品開発・改良	6 安全な水とトイレ を世界中に 12 つくもの責任 つくる責任 13 気候変動に 具体的な対策を 14 海の豊かさ を守ろう 15 陸の豊かさ を守ろう
S	人材開発	人材育成の強化	4 質の高い教育を みんなに 8 働きがいも 経済成長も 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう
	Well-being	- エンゲージメントの向上 - 働きがいの向上、ワークライフバランス、健康推進 - 人権・多様性の尊重と多様な人材の活躍 (ダイバシティ・エクイティ&インクルージョン)	3 すべての人に 健康と福祉を 5 ジェンダー 平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も 10 人や国の不平等 をなくそう
	DX推進と生産性の向上	デジタルデータの活用と社内業務の協働による ビジネスモデルの構築	8 働きがいも 経済成長も 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう
	ステークホルダーエンゲージメント	- リーダーシップの発揮 - サプライヤーとの共存共栄 - 顧客満足・信頼の追求	8 働きがいも 経済成長も 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 12 つくもの責任 つくる責任 16 平和と公正を すべての人に 17 パートナリシップで 目標を達成しよう
G	ガバナンスの更なる改革	- コンプライアンスの徹底 - 組織体制の全体最適化	8 働きがいも 経済成長も 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 16 平和と公正を すべての人に 17 パートナリシップで 目標を達成しよう
	リスクマネジメント	災害対策、リスク管理体制の強化	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を 16 平和と公正を すべての人に

■ 製造から施工まで当社で対応、営業は全国54支店、製造は4工場



オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制



工場

小松ウオール

■ 石川県小松市、加賀市の4工場で間仕切・トイレブース・ドアを製造

第三工場

可動間仕切の製造



加賀工場

ドアの製造



第一工場

移動間仕切の製造



本社・第二工場

本社及び
トイレブースの製造

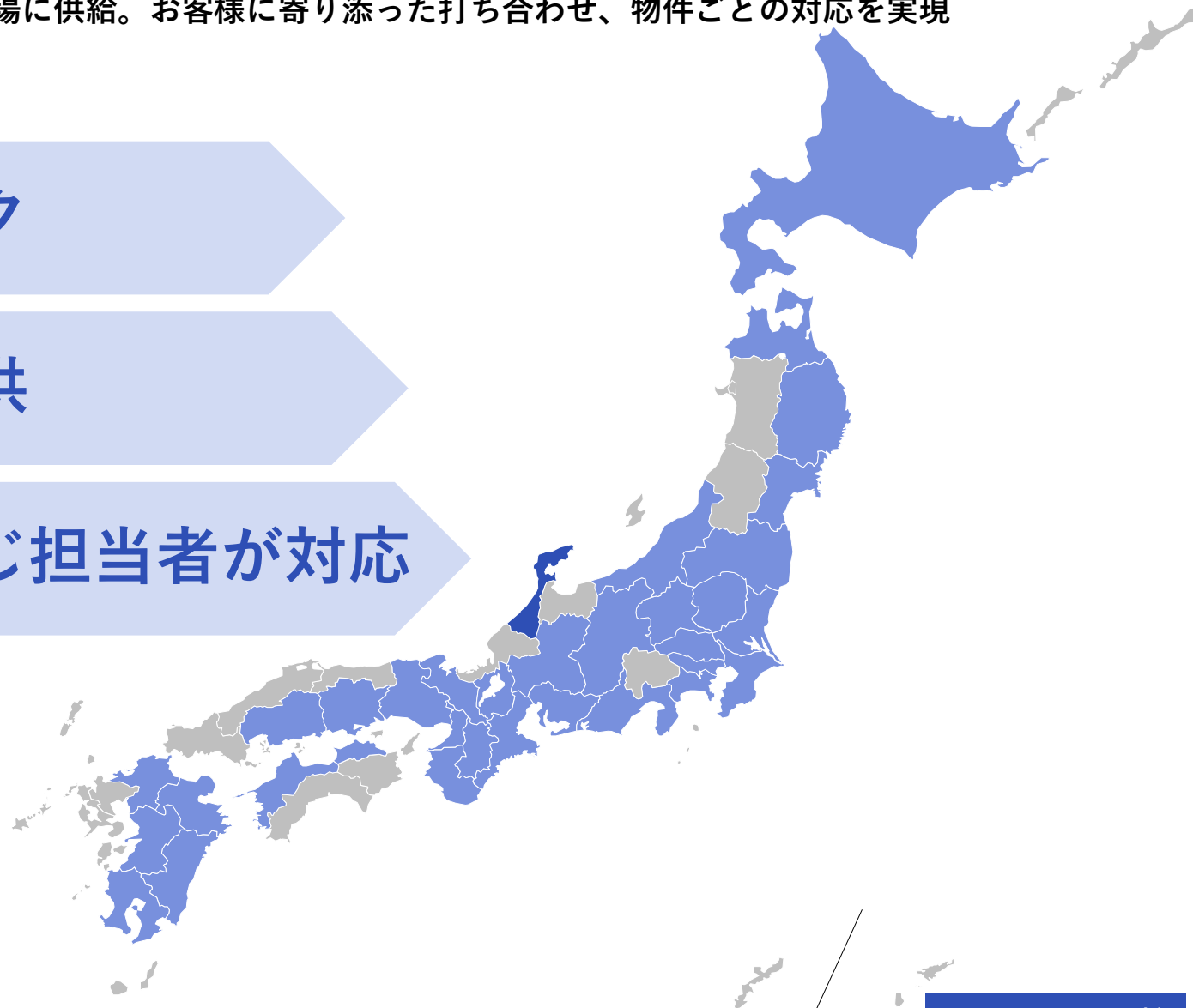


■ 全国に54拠点の支店を配置、全国に安定した納期、品質で市場に供給。お客様に寄り添った打ち合わせ、物件ごとの対応を実現

■ 地域での強いネットワーク

■ オーダーメイド品の提供

■ 受注から施工まで同じ担当者が対応



*青色の都道府県には支店を設置

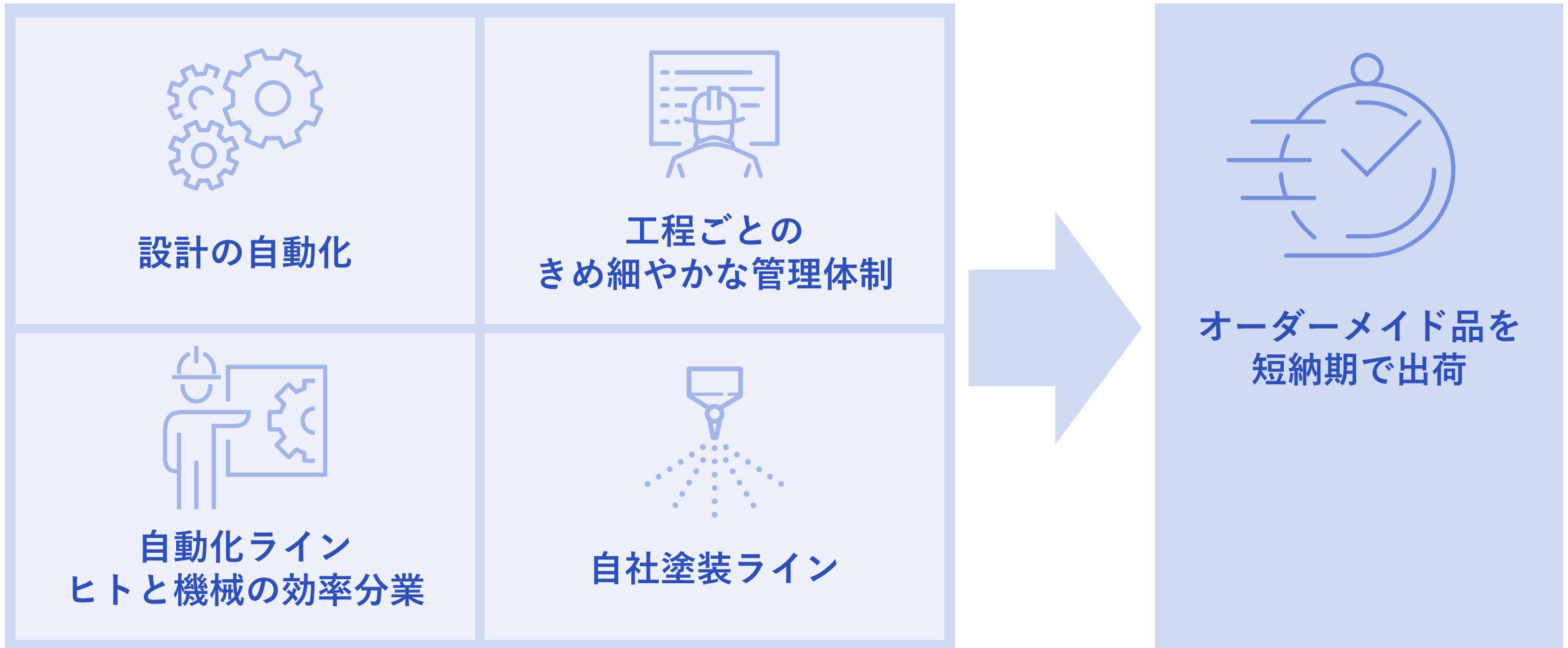
オーダーメイド対応へのこだわり

■ 自社開発品の提案のみならず、設計事務所などからの要望に沿った製品も開発・設計

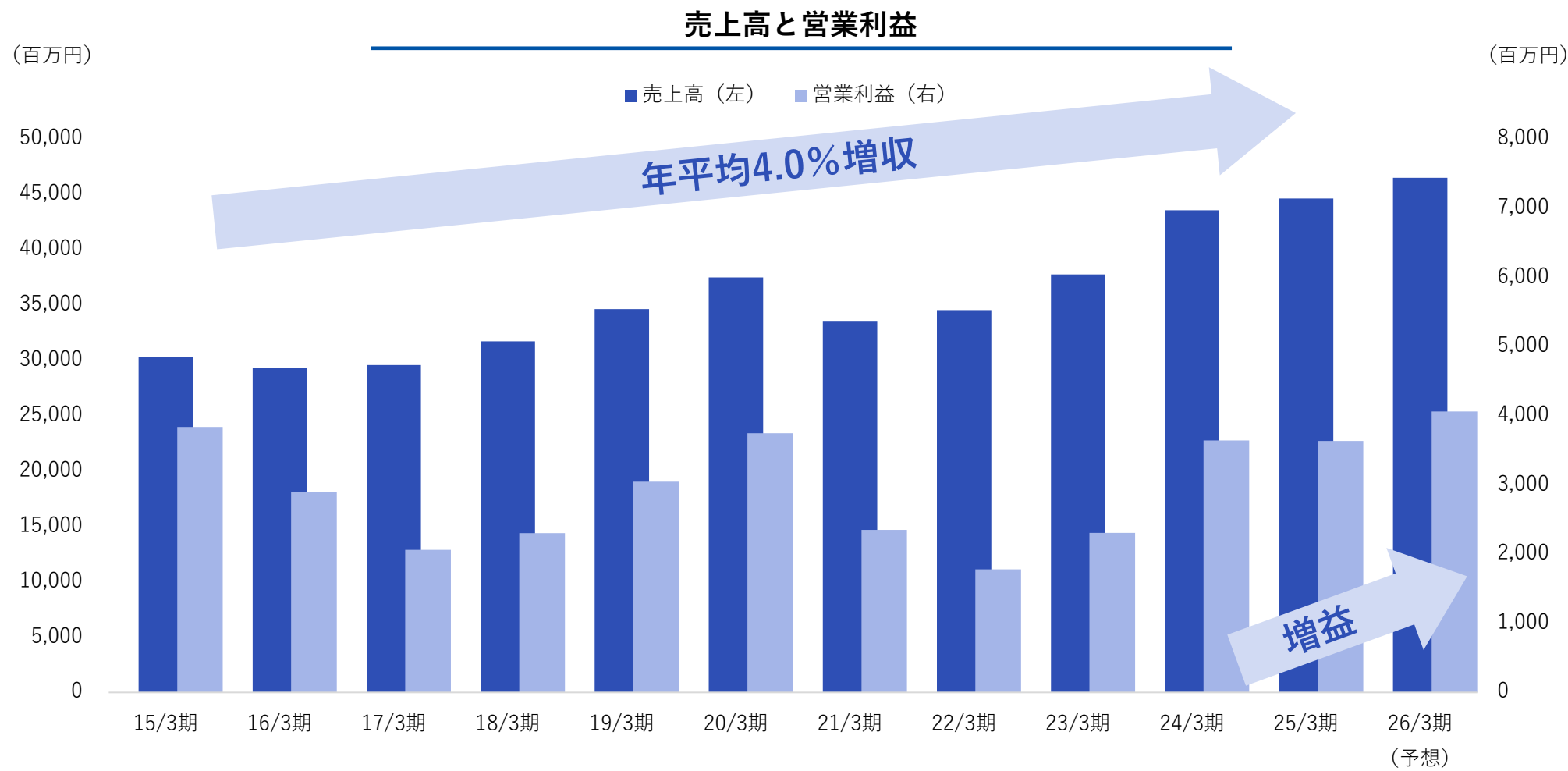


オーダーメイドを短納期で成し遂げる生産ライン

■ 小ロット多品種生産ができる仕組みを作り、オーダーメイド品を効率的に生産。受注から出荷まで3～4週間で対応



- 間仕切需要拡大に伴い、売上高は2025年3月期まで過去10年間で年平均4.0%増収
- 2025年3月期はオフィス向けなどが好調で増収、売上総利益も増益となったが、物流費等の販管費が増加し、営業利益は前期並み





小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

お問合せ先

小松ウォール工業株式会社
社長室

TEL 0761-21-3131(代表)

https://www.komatsuwall.co.jp/form/form.php?form_id=201

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。